

会 議 録

1 会 議 名 第10期北九州市男女共同参画審議会 第2回

2 開催日時 令和3年12月13日(月) 9:30~11:30

3 開催場所 市役所15階 15C会議室

4 出席した者の氏名

(1) 審議会委員

来所 大島まな(会長)

オンライン 石原謙一郎、井手 昇、江副春之、胡眞子、岡本悦子、
古賀由布子、手島寿則、波多江啓史、藤野紗江、屋敷智子、
安河内恵子、湯浅壘道(副会長)、渡辺晶子

14名

(2) 事務局 総務局女性の輝く社会推進室長 木下孝則 他4名

5 会議の内容

- ・第4次北九州市男女共同参画基本計画の令和2年度実施状況を報告した。

6 審議会委員からの意見

- ・第4次北九州市男女共同参画基本計画令和2年度実施状況報告書について
(柱Ⅰ あらゆる分野の方針決定過程への女性の参画拡大)
 - ・「北九州イクボス同盟」等において実施している階層別研修会とは具体的にどのようなものか、具体的に示していただきたい。
 - ・「市役所における女性管理職(課長級以上)比率(消防職員、教職員を除く)」について、女性管理職の退職者数の増減等による影響もあるかと思うが、課長職候補者(係長職)を増やすための取組等、目標達成に向けた取組を進めていただきたい。
 - ・「市役所における女性役職者(係長以上)比率(消防職員、教職員を除く)」について、管理職候補者となる係長に昇任したい職員を増やすための取組は継続していただきたい。

(柱Ⅱ 女性が活躍しやすい経済社会の実現)

- ・コロナ禍における女性の就労が厳しい状況となっているが、本市の相談件数等の実態はどのようなになっているか。
- ・「北九州イクボス同盟加盟企業数」について、当初目標値からの企業数の伸びが大きい。商工会議所等との連携や企業向けのeラーニング・研修等を引き続

き進めていただきたい。

- ・「25～44歳の女性就業率」の数値について、国勢調査の数値を数値目標として使用しているが、国勢調査以外の年は他の近似的な数値を目安として出すことも検討いただきたい。
- ・「ウーマンワークカフェ北九州」によるワンストップの支援について、利用後の追跡調査や利用者のアンケートによる情報集約等、フォローアップの方法を検討いただきたい。

(柱Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進)

- ・「市役所における男性職員の育児休業取得率」の伸びが大きい。男性の対象職員への面談や研修の実施等、取組の成功事例を市内民間企業に情報提供していただきたい。
- ・「6歳未満の子どもを持つ男性の育児・家事関連時間」について、共働きが増える中、男性の育児・家事関連時間が相対的に少ないが、一方で長時間労働の問題もある。ワーク・ライフ・バランスについて社会全体で考えていく必要がある。
- ・男性の育児休業を今後一人でも増やし、身近にロールモデルをつくることが職場での意識付けや育児休業の取りやすさ等に繋がるのではないかと考える。

(柱Ⅳ 男女共同参画意識が浸透した社会の実現)

- ・家庭教育学級の実施について、コロナ禍において家庭で子どもが過ごす時間が増え親の悩みも増加する中、オンラインの活用等開催方法のさらなる工夫により支援の強化をお願いしたい。

(柱Ⅴ 女性に対する暴力の根絶など安心して暮らせる社会の実現)

- ・コロナ禍において家庭内でのDVや子どもへの虐待が増えているとの報道がある。声を上げない人もいると考えられる中、NPO等民間との連携によるきめ細かい支援も効果的である。
- ・配偶者等からの暴力について、望まない妊娠や出産等の課題について今後さらに注視していく必要があると考える。
- ・人工妊娠中絶等について、相談体制を整えるだけでなく、未然に防止するための情報提供や学校教育等による意識付けが重要であるとする。
- ・令和4年からの男性の育児休暇の拡充に伴い、取得以降確認時等において企業内で社員に対するマタニティハラスメントが発生した等の相談の増加が懸念される。
- ・子どもがインターネットに触れる環境が当たり前となっている中、性教育やネットいじめ、SNSの危険性等ネットリテラシーに関する問題について、いろいろな立場の人が一緒になり取り組む必要がある。